

人の知恵に勝る神の知恵

(1コリント1・26～31)

一、コリントの教会について

コリントの教会は、パウロが第二回目の伝道旅行の際に立ち寄り、安息日ごとにユダヤ教の礼拝施設である会堂に入り、イエスがキリストであることを語ることによって誕生した群れでした。紀元50年頃のことと考えられます。パウロは聖霊の促しにより、一年半の間コリントに腰を据えて伝道しました。そのため、少数のユダヤ人、及び神を敬うギリシア人が救われ、その後多くのコリント人が、すなわち聖書について全く知識を持たない異邦人が救われ、教会は人数を増して行きました。ところが、コリントの教会には混乱が起きました。それは、分裂分派の問題でした。あるいは、教会に属しながら、すなわち洗礼を受けていながら、淫らな行いをしている教会員がいました。あるいは、信者間に争いが起き、それが裁判沙汰に発展することもありました。あるいは、パウロを批判する信者が現れました。

二、問題が大きくなった理由

コリントの教会に問題が発生し、問題が大きくなって行った「理由」は何だったのでしょうか。

まず、人間性を挙げるができる

と思います。コリントの人々は活発な方が多かったものと思われれます。分裂分派、性的な乱れ、裁判沙汰、人への誹謗中傷が教会の中に起きましたが、それらはコリントの町においては日常茶飯事のことだったのでありません。すなわち、教会外の価値観や生活スタイルが、そのまま教会に持ち込まれたわけです。コリントの教会員たちは、イエス・キリストを信じて、水のバプテスマ(洗礼)を受けていましたから、救われていました。ところが、御霊によって結ぶ信仰の果実については、はなはだ不十分でした。

次は、適切な指導者がいなかったことです。人が成長するためには、指導者が必要です。放っておかれたら、人は成長しません。関わられすぎても、ダメです。そういうわけで、御霊の導きを知る指導者が必要です。どうやら、コリントの教会には適切な信仰の指導者が居なかったようです。

三、聖書が語る罪の根

それにしましても、私たち人間は放っておかれると、なぜ悪い方向に向かってしまうのでしょうか——もちろん個人差はありますが——。私たちが神から離れているからであると、聖書は語ります。創造主なる神に背を向けて歩んでいるところに、問題の根があり

ます。それを「罪」と読んでいます。

では、創造主なる神に、なぜ背を向けて歩むのでしょうか。自分が偉くなりたからです。自分が神のようになって、すべてを知り、すべてを統めたいと願うからです。この性質は最初の人アダムによって入り込みました。

四、コリントの教会の人々

26節をご覧ください。〈兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。

人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。〉と、パウロは語っています。コリントの教会を立ち上げたのはパウロでしたから、パウロは一人びとりを良く知っていました。ですが、パウロがこの手紙を書いた時、コリントの教会員たちは、かなり偉そうにしていました。「私はパウロにつく」「私はアポロにつく」と、指導者の品定めをしていたのです。あるいは「パウロは自分たちから吸い上げて私腹を肥やしている」とまで言ったかどうかは分かりませんが、パウロを批判している教会員が居ました。そういうわけで、パウロはコリントの教会から謝儀を受け取りませんでした。そのことが、9章に書かれています。コリントの教会に属する異邦人キリスト者は、キリストに出会った時は、人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者

も多くはありませんでした。彼らは、

〈この世の愚かな者〉でした。〈この世の弱い者〉でした。さらには、〈この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者〉でした。ところが、キリストを信じてバプテスマを受け、教会に連なるようになり、神の祝福を受けると、肉の弱さが頭をもたげてまいりました。

五、人の知恵に勝る神の知恵

私共はどのようにしたら、生涯にわたって御心に適う信仰を保つことができるのでしょうか。それは、みことばであるキリストの福音を受け入れることです。パウロは語ります。1章21節です。〈神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです。〉と。キリストの福音は、人間的には非常に愚かに見える教えです。ですが、これこそは神の知恵です。30節後半に、〈キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになられました。〉とあります。この、愚かに見える「神の知恵」が、義をもたらしめました。すなわち、神の前に罪人である私たちが、キリストを信じるだけで正しい者と見てくださるのです。また、聖とされました。すなわち、この世から取り分けられ、聖別された者となりました。さらには、贖われました。すなわち、神のものとされました。